

# 障害福祉サービス事業所等の新型コロナウイルスへの対応等に関するWEB調査の結果(概要)

## 調査概要

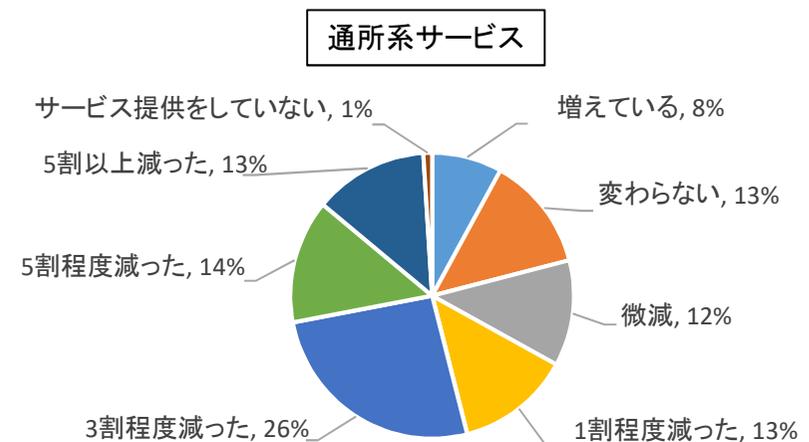
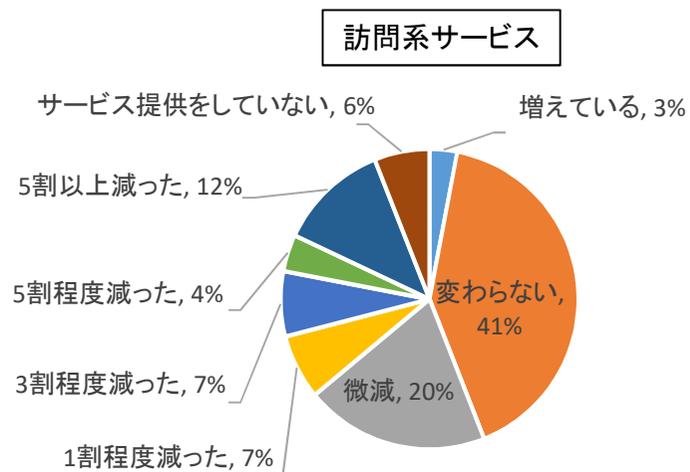
市内の障害福祉サービス事業所、障害児通所支援事業所、地域活動支援センター等を中心にWEBアンケートを実施

実施期間: 令和2年4月17日～4月24日

回答数 : 350件 回答率28.6%(350事業所/1,224事業所)

## 主な回答傾向

- 回答した事業所の約5割が「通常どおり運営している」を選択している一方、約4割が「事業を一部縮小している」を選択
- 3月以降の利用実人数は、訪問系の約6割が「増えている」「変化なし」「微減」を選択している一方で、通所系では約7割が1割以上減少していると回答(下図参照)
- 臨時休業又は事業を一部縮小している理由として、回答した事業所の約5割が「地域で感染者が発生する等感染の恐れがあったため」を、約2割が「利用自粛により利用者が減少したため」を選択
- 約9割の事業所が「国・県・市からの情報を収集して、職員に周知している」「職場での感染防止の対策を定め、職員に周知している」を選択している一方、約7割の事業所が「サービス提供にあたる職員が不安を抱えている、動揺している」を選択



## 自由記載概要

※現在、事業所において懸念していることや、今後、対応を検討していること(主な意見を抜粋、同種意見が多い場合は集約)

### (共通項目)

- 職員・利用者の家族が発熱した場合の職員の対応がどうしたらいいのかが不安。
- 職員のメンタルヘルスケアが必要。
- 利用者減にともなう収入減。それにともなう雇用確保不安。
- 市からは事業継続を求められたが、感染防止のため一時的に事業休止したい。
- アルコール消毒、アルコール綿、防護マスク、PVCグローブ等の衛生用品が不足している。

### (訪問系)

- ヘルパー自身が高齢、あるいは感染源になりたくないという理由で自粛している。
- 通所や短期入所をキャンセルした利用者のサービス回数が少しずつ増えており、今後対応しきれなくなる可能性がある。

### (通所系・地域活動支援センター)

- 手洗い・マスクが上手くできず、公共交通機関や通院を行い、感染リスクが高いまま通所される利用者が多い。
- 人工呼吸器使用者や胃ろう造設者などの利用者が感染すると重篤になる可能性が高く、職員の不安が大きい。
- 通所自粛の協力をいただいているが、長期化することで家族負担の増大は避けられない。
- 施設を閉鎖したいが、実家に帰れないGH利用者があるためサービス提供を継続せざるをえない。
- 利用者を減らした場合、請負契約をしている作業が通常通り実施できず、契約先の理解が得られるかどうか心配。
- 取引先が操業を縮小・休止したため作業が減り売り上げが激減している。

### (短期入所系)

- 入所施設の方で感染者が出たときの支援体制。
- 利用者感染者が出たとき隔離する場所や支援体制はどのようにするのか。